

基本情報

学校

由布市立東庄内小学校

学校運営協議会

東庄内小学校学校運営協議会

平成27年4月1日設置

委員構成

地域学校協働活動推進員
保護者・PTA関係者
老人会代表
環境教育アドバイザー(地域住民)
自治委員代表
民生委員代表

など 9名

会議回数

年間平均4回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働推進員1名(1名)

地域学校協働本部

庄内地域学校協働本部

背景・取組概要

★東庄内が目指す子ども像について、3つの柱を立て、「どんな力を身に付けることが必要か」の熟議を行ない、「自分で考え、伝える力」と「お互いを認め合う力」が必要であると捉えた。学校目標を「地域とともに、知識を活用し、認め合い、挑戦する『東っ子』の育成」と設定し、対話を通じた子ども主体の学びや体験活動を通じた豊かな学びが充実する学校づくりを目指した。そのために、子どもが自分自身で課題を発見し、深く考え、子ども同士だけではなく多様な大人とも対話によるやりとりの機会を増やすこと、豊かな学びを実現させるために様々な体験活動を充実させることが必要であると考えた。

→子ども主体の学びと体験を通じた豊かな学びが実現する学校づくりを地域とともに目指す。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

学校運営協議会は年間4回開催している。体験を通じた豊かな学びを実現させるために、**各委員が自らの強みやできることを事前に考えて持ち寄り、第1回の学校運営協議会の場で共有する。**その後、**各学期の活動を、学校と学校運営協議会委員で協議し、計画する**ようにしている。

＜各委員の内容(例)＞

老人会代表	地域住民	地域学校協働活動推進員
老人の強みを生かす ⇒昔の遊びを行う	環境教育アドバイザーの資格をいかす ⇒緑の教室、星空観察会	地域と連携した授業補助ができる ⇒人材紹介、由布学等の支援

◆地域学校協働活動

体験を通じた豊かな学びを実現させるために、学校の周辺に、子ども・教員が地域住民と協力して「学びの森」を作り、総合的な学習の時間や理科の授業等で活用している。地域学校協働活動推進員と学校運営協議会委員(環境教育アドバイザー)は、「**学びの森**」を拠点として、**各学年の発達段階や季節ごとに応じた体験教室をコーディネートしている。**体験教室の内容については学校運営協議会の場で話し合い、計画的に開催している。

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

体験活動の必要性を、学校運営協議会で共通認識している。**総合的な学習の時間や理科の授業等で、必要な体験活動について、学校からの情報共有を基に、学校運営協議会で協議する。**地域学校協働活動推進員が、学校運営協議会委員として参画し、活動や人材のコーディネートを行なう。



成果・効果

◆学校と地域が、体験活動の充実に向けて協働することにより、**子どもに身に付けさせたい力を育成することができた。**(指標1)

◆対話を通じた考えの深まり、**地域や社会をよりよくしたいと思う気持ちの肯定的な回答が90%を超えたように、学び(取組)の成果が感じられるようになってきた。**(指標2)

	指標1	指標2
	話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができている (肯定的な回答)	地域や社会をよくするために何かしたいと思っている (肯定的な回答)
	子ども(6年生)	子ども(6年生)
H31	38%	63%
R6	100%	90%